

全国私立大学FD連携フォーラム

「2010年度総会・パネルディスカッション」に参加して

教育開発支援機構

FD推進センター長 川上 忠重

全国私立大学FD連携フォーラム(Japan Private Universities FD Coalition Forum)の2010年度総会およびパネルディスカッションが2010年6月12日(土)14:00~17:00に関西大学千里山キャンパスで開催された。今回はパネルディスカッションについて簡単に内容を報告したい。

本フォーラムは、学生の規模や多様性の面で共通課題を抱える中規模以上の私立大学がお互いに持てる力を出し合い、FD(ファカルティ・ディベロップメント)分野において連携することを目的として、2008年に発足したものであり、実践的なFDプログラムを共同開発・共同実施することを通じて、学生を主体的学習者に育てて、私学の教育の質を保証することを大きな目的としている。幹事校は、法政大学、関西大学、関西学院大学、慶応義塾大学、中央大学、同志社大学、明治大学、立教大学、早稲田大学であり、代表幹事校は立命館大学である。また、その他会員校として12大学も参加する規模の大きな私立大学のFD連携組織である。

2010年度総会の後、「私立大学におけるFD実践の成果と課題」をテーマとして、パネルディスカッションが行われた。コーディネーターは、関西大学教育開発支援センター長池田勝彦氏である。パネルディスカッションに先立ち、テーマに沿った4つの話題提供が行われた。以下に話題提供パネリストおよび話題提供表題を示す(話題提供順)。

(1) 佐藤恵太氏(中央大学法科大学院教授)

「中央大学法科大学院(CLS)におけるFD活動[Tentative Draft]」

(2) 内藤周弑氏(神奈川大学FD全学委員会委員長工学部物質生命化学科教授)「神奈川大学におけるFDの取り組みについて」

(3) 斎藤誠氏(東北学院大学、副学長、法学部教授)

「到達目標」の明確化による教育改革—フォーラ

ム・ワークショップへの参加を契機として—」

(4) 沖裕貴氏(立命館大学 教育開発推進機構教授)

「大規模大学における『学生参画』の方法と実践」

話題提供の内容は、どの大学も各大学の私立大学としての特色を活かし、ベストティーチャー賞、卒業生の授業改善コメントを聞く会の開催、新入生向けのファースト・イヤー・セミナーの実施、「シラバスと授業の到達目標の書き方」およびアクティブラーニング(伝統的な教員による一方向的な講義形式教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称)の考え方の紹介等もあり、私立大学に特化した多くのFDによる教育改善の新たな知見を参加者とともに共有する機会であった。

話題提供後、話題提供者をパネリストとし、参加者とともに質疑応答形式のパネルディスカッションが開催された。各大学の実際に抱えているFDに関する問題点の明確化や今後のFDに関する議論が活発に行われた。その中の1つの結論として、やはり今後の私立大学におけるFD活動の重要なポイントの1つとして各大学等の教育開発支援センターや全学FD委員会等が中心となり、各教学単位の教員・職員・学生が連携した形での「草の根」的な地道なFD活動こそ、私立大学の今後の「教育の質」向上に向けた原動力になりうるということが、指針として共通認識されたことは、極めて重要であると思われる。

今後も連携関連機関からのFDに関する情報を学内に配信することにより、さらに本学各学部等との「連携」を図りたいと考える。本学でのFDに関する「草の根」の拡張ために教育開発支援機構FD推進センターへのご協力を切にお願いする次第である。

以上